

令和2年度 学校自己評価（年度末）

基本方針 安心安全で生徒職員ともに元気な学校、生徒の長所を引き出し社会から信頼される学校づくりを目指す

重点目標	具体的目標
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。	(1) 生活指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②ルールの遵守、マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底 ④元気なあいさつ・返事
2 基礎基本の学力定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。	(2) 学習指導 ①授業規律の徹底 ②授業力の向上、授業改善（主体的・対話的で深い学び） ③家庭学習の定着
3 キャリア教育の一層の充実を図るとともに、大学入試改革への対応を図る。	(3) 進路指導 ①キャリア教育の推進 ②就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究
4 部活動や特別活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図り、円滑な人間関係や素直な心と感謝の気持ちを育む。	(4) 部活動及び特別活動 ①部活動の充実 ②学校行事の充実 ③生徒会活動、委員会活動の充実
5 教職員間のコミュニケーションや連携を図りながら多忙化を解消する。	(5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①業務の適正化 ②確実・適切なメンタルヘルスの保持 ③年次休暇の計画的な取得を促進する環境整備 (6) その他 ①環境美化 ②ボランティア活動の推進 ③積極的な情報発信

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	① PTA 活動をより充実させる。	PTA 活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	感染症対策上、活動の中止や参加人数の制限等、従来通りの活動はできなかった。しかし、文化祭には全世帯の 35%、体育大会には 27%の保護者に来校していただけた。また、保護者アンケートの回答率は、昨年度の 95%を維持することができた。来年度以降も、引き続き、1年で1度は保護者に足を運んでいただける学校を目指していく。
	② 内海高校の魅力を発信する。	従来からあるホームページや学校案内に加え、新たな情報発信方法を考える。	A	今年度は学校案内を刷新し、卒業生の声や、時間割例など、学校生活を具体的にイメージできるような内容を盛り込んだ。 ホームページについては、学校の動きを良く把握し、広い分野での情報発信に努めた。また、教務主導の公式インスタグラムとの相互リンクなど、情報発信の幅を広げることができた。 職員全員での広報活動を目標に指揮をとることが今後の課題である。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
教務	① 落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かえる環境を作る。	B	今年度より授業規律に反する行動に対しては、よりこまめに指導を行うこととなっている。学習環境については概ね良好な状況であり、過年度と比較すると考査での欠点の総数は減少している。更に生徒の学力を定着させるために、家庭学習の充実を図っていくことが今後の課題である。
	② 業務の効率化・電子化を行い、教員の多忙化解消を図る。	紙媒体で行われている業務を見直し、PCでの処理ができるよう環境整備をする。	B	手書きで行っていた成績結果の報告を、今年度よりコンピュータ入力で行い、成績処理業務の時間を大幅に短縮できている。次年度に向けて、通知表を電子化することを現在検討している。生徒に行うアンケートや課題の配布を電子化するなど、更なる業務の効率化も今後検討していく。
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻を減少させる。	A	昨年比で遅刻指数が減少傾向にある。欠席指数 2.38(4.56)、遅刻指数 0.76(1.06)で、(()内昨年度末指数) 継続的な生活態度を含めたさらなる改善をいかに図っていくかが課題である。私生活での人間関係の乱れを発端に、学校生活も乱れる生徒のケアが課題となる。
		皆勤者の増加を図る。	A	今年度 12 月末時点での皆勤率は、1年 50%、2年 44%、3年 58%、3 学年で 52% となり、目標を達成できた。
	② ルールの遵守、マナー向上	ルール・マナーを遵守し、TPO に応じた行動ができるよう促す。	A	規範意識は大きく高まってきている。集会時や授業時、登下校時においても前向きな言動が見られるようになってきた。
	③ 学校行事、部活動の活性化と充実	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A	生徒の主体的な取り組みが目立った。感染症対策を考える中で、できることを最大限行う姿勢がみられた。
		部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	B	各部活動の活動が充実してきた。途中での転退部の防止は依然として課題である。活動場所の整備と清掃、部室の整頓に力を入れている状況が各部活動に見られてきた。
	④ いじめのない安心安全な学校生活	スクールカウンセラーと連携し、いじめ事例に組織的に対応する。	A	いじめ問題に対しては、状況の把握と当事者双方の言い分や考え方の理解、互いに納得のできる対応が学年中心にできた。精神的に不安定な生徒への対応は、教育相談係やスクールカウンセラーのアドバイスを生かして対応する環境が構築できた。
真面目な生徒が損をしない環境を作る。		B	真面目な生徒の取り組みを支える体制が生徒の中にも構築されてきた。	

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
進路指導	① 進学指導・就職指導を充実させる。	進学・就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化をしっかりと図り、適切な指導ができるようにする。	B	進学指導として、成績上位者の志望校を早めに決定し、合格を目指して対策学習に取り組ませた。また、補習と模擬試験を連携させ、学力の向上を図った。 就職指導として、教員間で事業所に関する情報の共有を図り生徒の受験先の決定と合格への対策指導を行った。コロナの影響で例年以上に1次の不合格者が出たことは今後活かしていく。(1次内定率80.4パーセント)
	② 低学年から進路意識を持たせる。	進路行事を積極的に活用する。	B	夏のインターンシップの縮小(受け入れ事業所8箇所、参加生徒2年16名、1年12名)、大学や企業の見学などが中止となった。冬にNPO法人アスクネットと学年団の協力を得て2年生全員(50名)を、半日のインタビュー形式でインターンシップを実施した(受け入れ事業所14箇所)。それぞれの事業所で概ね良い評価をいただいたが、事前の打ち合わせや事後指導が不十分な点があったため、来年度に反省を活かす。
保健厚生	① ボランティア活動の継続と充実	地域とあゆむボランティアの活動を発展させる。	A	参加人数は、大地の丘ボランティアは延べ11名、地域とあゆむボランティアは延べ297名で参加率も非常に高かった。コロナウイルスの影響で大地の丘に訪問する回数が2回のみとなってしまったので大地の丘ボランティアの参加人数が減ってしまった。 今年度は高校生ボランティアアワードに参加し、全国の高校生のボランティア活動の内容を知ることができた。今後は地域の団体と協力して活動することでより良い活動になるように努めたい。
	② 生徒委員会活動の充実	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。 保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	B B	花壇の整備では、草取りや苗植えの活動を前向きに取り組ませることができた。しかし、水やり当番が定着しない状況があったので、積極的に取り組めるよう改善していく。 清掃道具点検、清掃状況点検が実施できなかったが、今後も充実した清掃活動を実施したい。 みはりん坊の活用の幅を広げるため、生徒保健委員会を開催し、全校生徒にその日の気温等を知らせるホワイトボードを作成した。学校保健委員会では保健委員会所属の生徒に発表させる場面を作れた。コロナの影響で健康診断が遅れ、学校保健委員会で本校の健康課題の周知ができなかったため、来年度は学校医等も呼び、実りある活動にしたい。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
保健 厚生	③ 相談活動の充実	スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	A	SCと連携し、スムーズな相談活動が行えた。保護者、生徒とも継続してカウンセリングを受けることで、生徒・保護者の安定も図れた。また相談記録の作成により、教員間での情報共有ができた。必要に応じて外部機関とも連携できた。
1 年	① 規範意識の高揚、基本的 生活習慣の確立	自分を見つめ自分を理解して自己の見直しを図る。	B	節目節目に振り返りをさせ、成長を感じさせるとともに、自分の課題を見つけさせた。教員からの声掛けで、自分の行動を変容させた生徒がほとんどであった。今後は、振り返りを習慣化させていくことが課題である。
		ルール・マナーを守る。	B	入学式後すぐにコロナウイルス感染症による休校、そして休校明け初日から授業開始となったこともあり、本校のルールや新しい生活様式の周知に時間がかかった。自ら率先してルールやマナーを守る態度の育成が、今後の課題である。
	② 学習習慣の充実	提出物・課題の提出期限を守る。	B	中学校で課題等をほとんど提出できていない生徒が多いなか、提出期限を守るという意欲の向上が見られた。全員が期限を守るまでには至らなかったため、徹底できるまで期限を守ることの大切さを伝え続ける。
		基本的学習習慣をつくる。	A	クラスの生徒数が7～8名で手厚い声掛けができたこともあり、生徒が授業に前向きに取り組むことができた。今後は、生徒の自らの意志で学習に向かうようにさせることが課題である。
2 年	① 周囲から信頼される生徒 の育成	ルールとマナーや時間と期限を守り、規律ある集団生活を送る。	B	指導を受けたことに対して、素直に行動を正すことができる一方で、自身の行動を自身の力で正していく点に弱さを感じる。一人一人が社会で通用する人物になるよう、自身の将来をイメージさせ、更にルール、マナーを周知、徹底していく。
		生徒1人1人の自立心を高め、前向きな挑戦を支援する。	A	1つ1つのルールの意味や目指すべき姿について丁寧に話してきた。その結果、今までよりも生徒の規範意識が高まったと感じる。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
2 年	② コミュニケーション能力の育成	各教科や総合的な探究の時間を活用し、自分の意見をまとめたり、発表したりする機会を増やす。	A	課題学習やまとめ学習を多く取り入れることができた。こういった学習に取り組んだ当初は、生徒が戸惑ってしまう場面が多かったが、活動に慣れてくると積極的に取り組めるようになった。 人前で発表することへの苦手意識を減らすことが今後の課題である。
		TPOに応じた言葉遣いと元気のよい挨拶や返事を身に付けさせる。	B	言葉遣いや挨拶、返事が大切であることは繰り返し伝えてきた。また、インターンシップや外部講師による講話でそういったことを生徒自身が体験的に感じることで一層改善がみられた。
3 年	① 進路目標の実現	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	A	進路を意識し、積極的に授業に取り組む姿勢が多く生徒に見られた。週間課題と帰りのSTでの10分間プリント学習を連動させ、学び直しに取り組むなど、積極的な学習活動を実施した。生徒も一生懸命に取り組んだ。定期テストでも欠点保有者数、保有科目数は大幅に減少した。
		進路意識を高めさせ、進路指導を充実させる。	B	進路決定に際して、学年会などで情報を共有し、チームとして進路指導に取り組むことができた。夏休み期間の進路対策講座においても生徒は非常に前向きに参加した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、第1希望の希望進路を実現できなかった生徒を13名(18%)も出してしまった。
	② 信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成	皆勤率の向上を図る。	A	学年皆勤者は42名となり、目標の30%を大きく上回った(60%)。3カ年皆勤者は12名(17%)であった。多くの生徒が目標や目的を持って学校生活に取り組むなど、社会人となることを意識して行動できつつある。
		身だしなみルールの徹底を図る。	A	頭髪等の身だしなみにおいて、意識を向けられる生徒が大幅に増え、指導を受ける生徒はほぼいなかった。身だしなみ指導において不備者0を達成するなど、教員の声掛けなしでも生徒が自ら判断して行動できるようになった。
		コミュニケーション能力の育成を図る。	A	社会に必要なスキルであることから、日常生活の中でことあるごとに意識させた。特に挨拶においては、進路と繋げてしっかりとできるようになってきた。教員に対する言葉遣いも随分丁寧になった。また、学校行事などでは生徒間で相談し、お互いにコミュニケーションを取りながら、協力して課題に取り組む様子が随所で見られた。